

シロバナワタカルス発酵エキス

開発経緯

シロバナワタは学名Gossypium Herbaceumであり、綿花の植物として利用されています。食用や化粧品としての利用は限られています。種子から採取される油には、優れた抗酸化作用があります。また、組織に浸潤しやすいという特徴があります。脂質成分の他に、有機酸、ポリフェノールや精油が含有されています。いずれも少量であるという欠点がありました。そこで、より大量の有用成分を含有するカルス培養を用いて新しい化粧品用エキスを開発しました。また、カルスとダイズを発酵することにより、低分子化しました。防腐作用もあることから、化粧品原料として利用されやすい発酵エキスになりました。

化粧品

表示名称 シロバナワタカルス培養物、バチルス／ダイズ発酵エキス

INCI Gossypium Herbaceum (Cotton) Callus Culture、Bacillus/Soybean Ferment Extract

原材料 シロバナワタカルス(日本産)、大豆(日本産)、納豆菌(日本産)

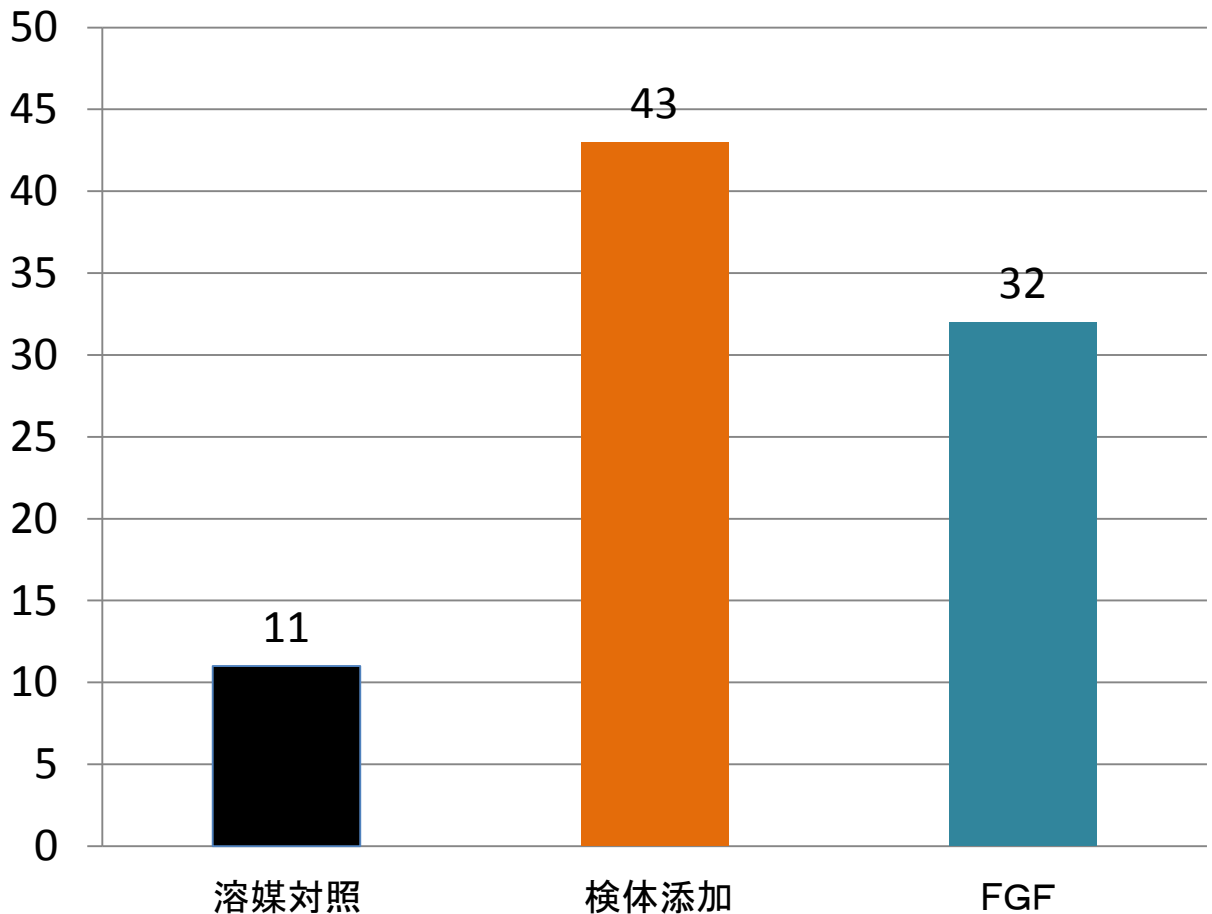
保管方法 : 直射日光を避け、冷暗所に保管する。
(防腐剤を使用していないため、開封後は早くご使用ください。)

未開封時賞味期限 : 2年間

シロバナワタカルス発酵エキス

ヒト皮膚線維芽細胞

細胞数 (×1000 cells)

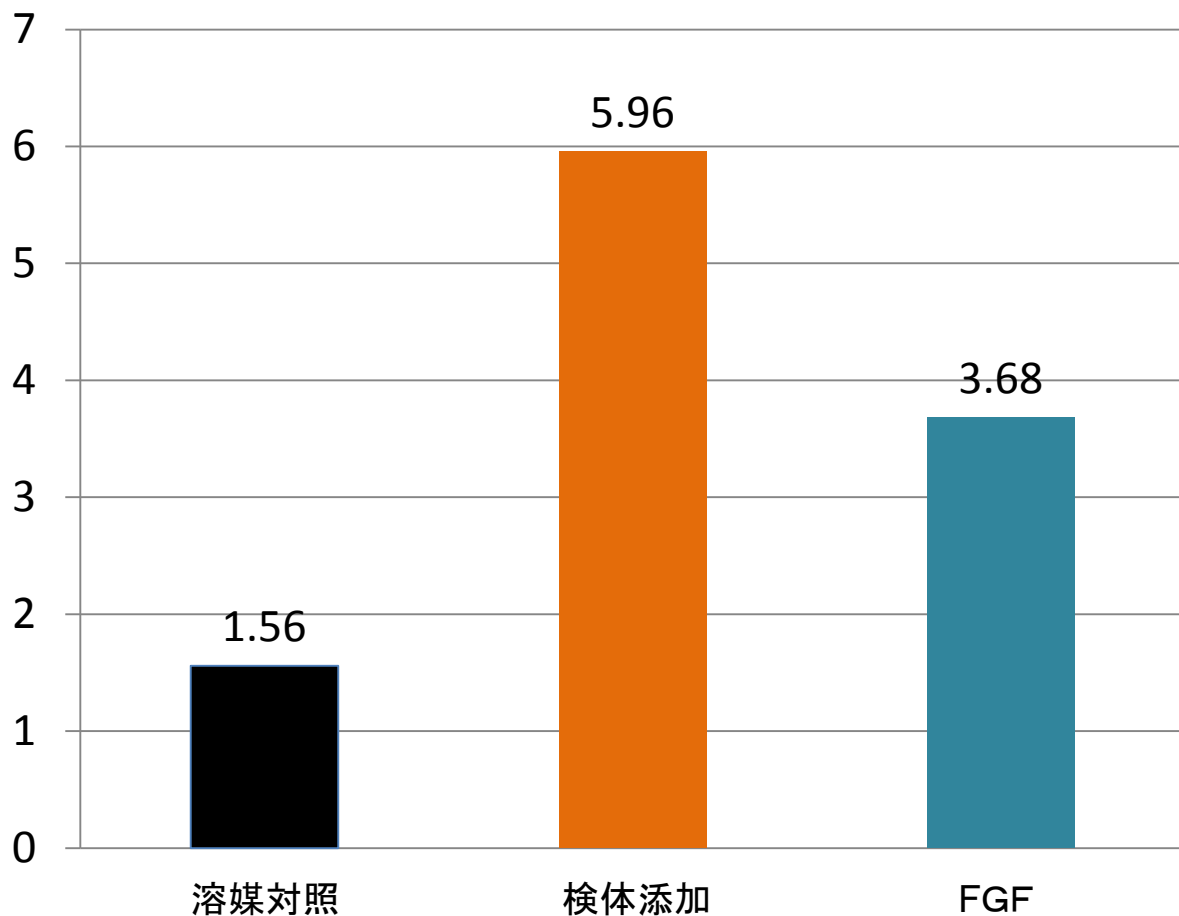


シロバナワタカルス発酵エキスはヒト皮膚線維芽細胞を増加させました。

シロバナワタカルス発酵エキス

ヒト皮膚線維芽細胞

コラーゲン量 (μg/1000 cells)

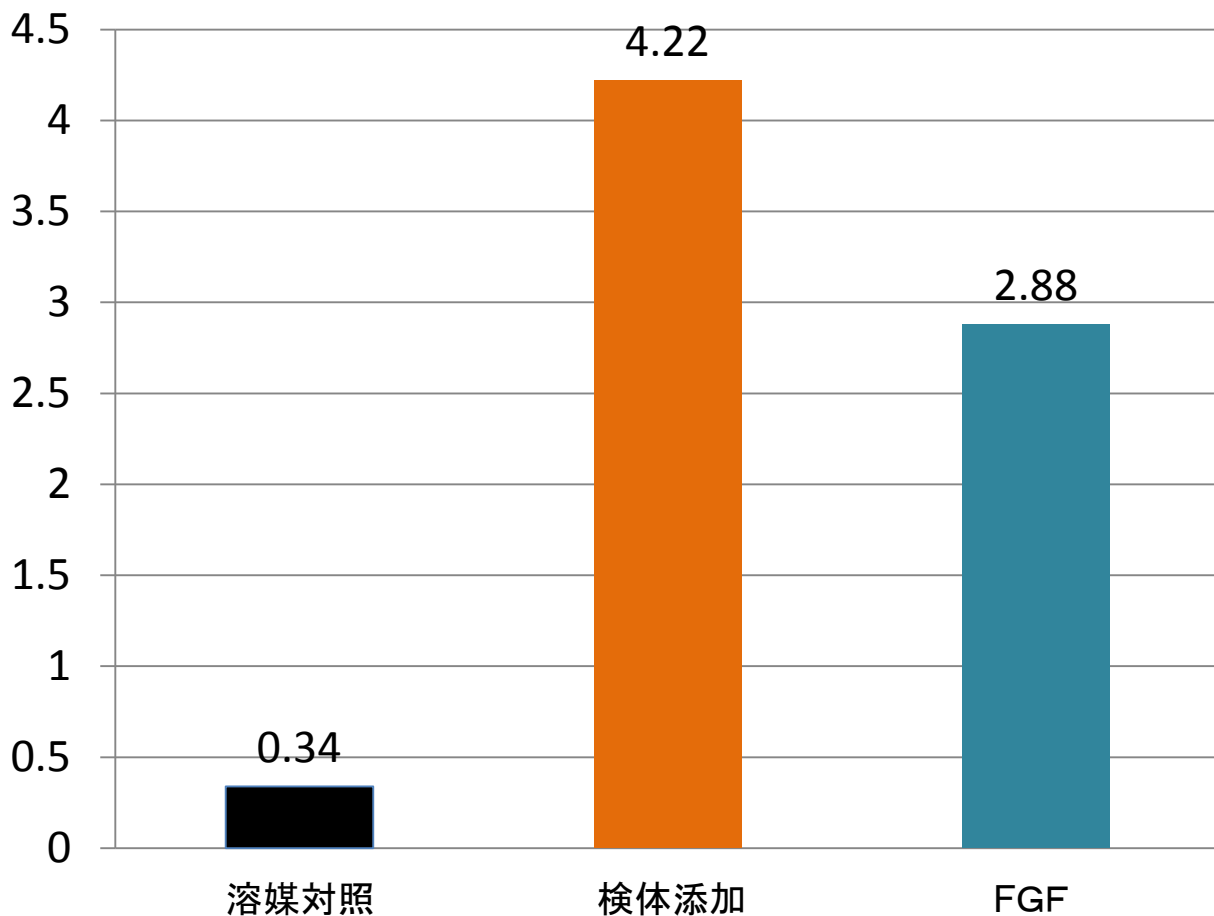


シロバナワタカルス発酵エキスはヒト皮膚線維芽細胞によるコラーゲン産生を増加させました。

シロバナワタカルス発酵エキス

ヒト皮膚線維芽細胞

ヒアルロン酸量 (μg/1000 cells)

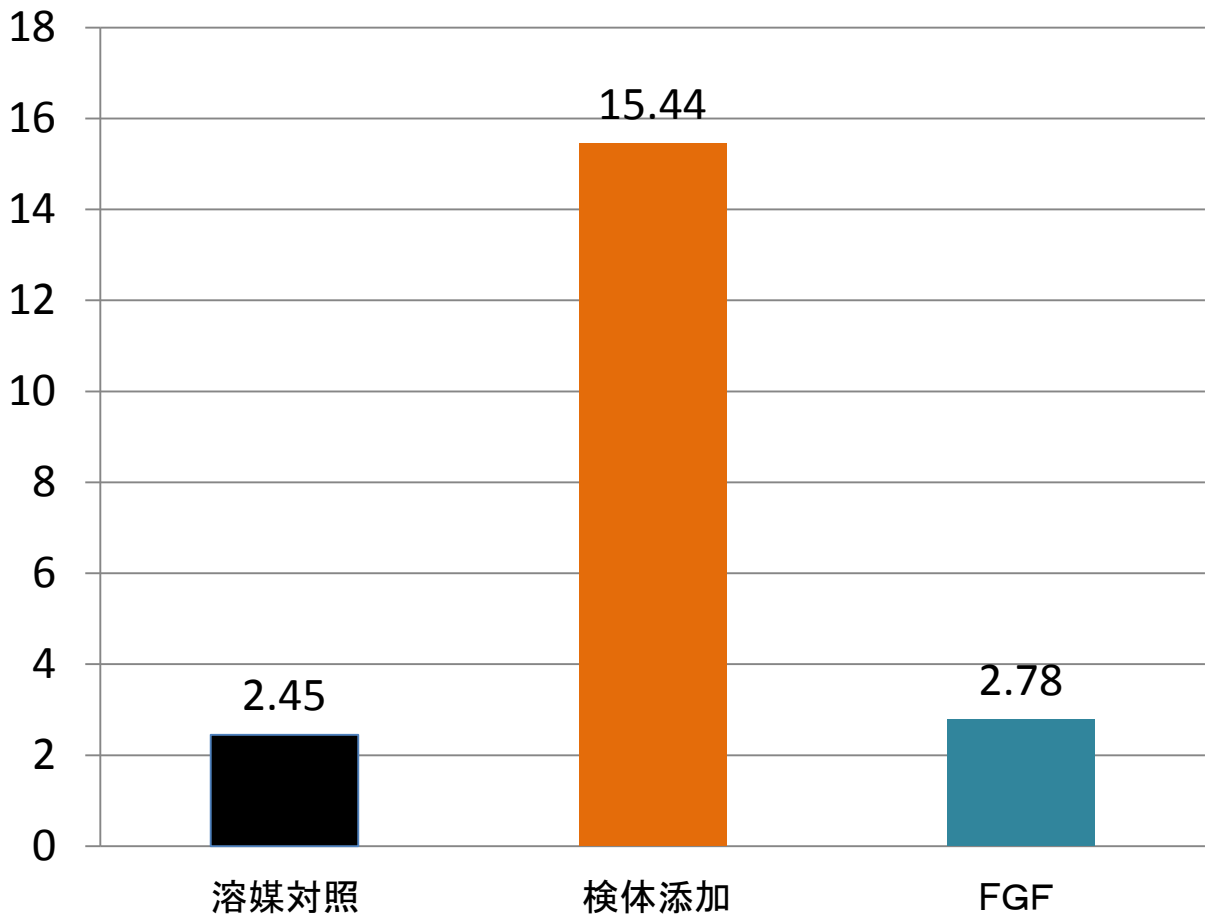


シロバナワタカルス発酵エキスはヒト皮膚線維芽細胞によるヒアルロン酸産生を増加させました。

シロバナワタカルス発酵エキス

ヒト皮膚線維芽細胞

FGF受容体活性 (mU / 1000 cells)



シロバナワタカルス発酵エキスはヒト皮膚線維芽細胞のFGF受容体を活性化させました。

製品規格書

製品名 : シロバナワタカルス発酵エキス

検査項目 :

1. 外観

検査項目	規格	測定方法
色	無色透明～薄黄色	目視
状態	液体	目視

2. 成分

検査項目	規格	測定方法
砒素	2ppm 以下	原子吸光光度法
重金属	20ppm 以下	硫化ナトリウム比色法
一般細菌数 (生菌数)	100 以下/g	標準寒天平板培養法
真菌数	陰性 (30 以下) /100g	デキストリン培地培養法
大腸菌群数	陰性 (30 以下) /100g	MPN 算出法

化粧品

表示名称 シロバナワタカルス培養物、バチルス/ダイズ発酵エキス

I N C I Gossypium Herbaceum (Cotton) Callus Culture、Bacillus/Soybean Ferment
Extract

原材料 シロバナワタカルス (日本産)、大豆 (日本産)、納豆菌 (日本産)

保管方法 : 直射日光を避け、冷暗所に保管する。
(防腐剤を使用していないため、開封後は早くご使用ください。)

未開封時賞味期限 : 2年間

以上

製造元

株式会社安理ジャパン

安全データシート(SDS)

作成日 平成30年5月21日

< 1. 製造者情報 >

製品名 : シロバナワタカルス発酵エキス
製造元 : 株式会社安理ジャパン
製造法概略 : シロバナワタカルスと大豆を納豆菌により発酵して得られる発酵液。

< 2. 物質の特定 >

単一製品・混合物の区別 : 発酵液。
化学名(一般名) : 特定できない
CAS RN : 特定できない
化審法番号 : なし
安衛法番号 : なし
国連番号(番号 クラス) : 該当せず
EINECS : なし
TSCA : なし

< 3. 危険有害性の分類 >

分類の名称 : 分類基準に該当しない
危険性 : 可能性がある。 熱、火花及び火災で着火することがある。
有害性 : 眼、呼吸器及び皮膚を刺激するおそれがある。
環境影響 : 記載すべき情報はない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合 : 直ちにまぶたを開いて、流水で15分以上洗浄する。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
皮膚に付着した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
吸入した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。
飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす場合がある。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。